

# 未来をつくる市政運営

1. 市政運営の基本姿勢
2. 都市構造形成の方針
3. 施策の体系
4. 施策の一覧

# 1

## 市政運営の基本姿勢

「挑戦を続ける、新たな杜の都へ～“The Greenest City”SENDAI～」の実現に向け、社会の変化を的確に捉えた市政運営を進めていきます。

### (1) 持続可能な都市経営の基盤を構築する

「新たな杜の都」に向けた施策を着実に推進するためには、中長期的な都市経営の視点に立って、健全な行財政基盤を維持することが必要です。そこで、地域経済の活性化による税源涵養など、財源創出に向けた取り組みを進めるとともに、積極的な民間活力<sup>※1</sup>の導入や事業の効率化などを図り、実効性の高い行財政運営を推進します。加えて、公共施設のマネジメントの推進、ガス事業民営化など都市経営の基盤となる資源の効率的・効果的な運用を図るとともに、デジタル技術の活用やデータに基づく政策形成を進めるなど、常に経営手法の改善・改革を図っていきます。

※1：民間活力  
民間企業の持つ事業運営能力や  
資金力。

また、地震や豪雨などの自然災害や感染症の流行拡大など、市民生活や都市機能に大きな影響を及ぼす危機に対しての備えを進めることも不可欠です。災害や感染症対応のノウハウを蓄積・共有し、危機に対応できる人材の育成を進めるとともに、平時から危機管理意識の徹底を図り、適切な災害等への対応と併せて非常時においても市民サービスを維持することができる組織体制をつくります。さらに、自助・共助・公助の取り組みを強化し、柔軟に対応を行うことができる危機管理体制を構築します。

### (2) 協働によるまちづくりを加速させる

地域のニーズにきめ細かく対応するためには、住民や地縁団体、市民活動団体、教育機関、事業者など多様な主体との協働によってまちづくりを進めることが不可欠です。そのため、政策形成に多様な方々の参画を促進し、誰もが市政に興味・関心を持ち、行動につながる環境をつくります。さらに、住民主体による自発的なまちづくりを支えるとともに、市民協働や公民連携を加速することで、地域の課題解決や活性化に取り組みます。

地域づくりの前線にある区役所においては、地域の状況にきめ細かく対応できる体制づくりを行うとともに、各局等との連携機能の強化を図り、より質の高い市民サービスにつなげる取り組みを推進します。

また、職員自身も業務内外で多様な経験を積み、当事者の視点による課題意識を持つことが重要です。新たな課題に挑戦する意識や意欲を持ちながら、市民協働や地域づくりを推進する職員が育つ環境をつくとともに、市民と職員の間における対話や学びあいをまちづくりにつなげていきます。

### (3) 社会の変化にしなやかに対応する組織をつくる

複雑化する課題に対応するためには、社会の変化を的確に捉え、しなやかに対応できる組織づくりが重要です。組織横断的な連携を図ることはもとより、前例にとらわれず、民間事業者や教育機関等の知見を積極的に取り入れながら、新たな発想の実現に挑戦しやすい組織風土をつくとともに、業務や事業の分析から改善に至るプロセスを迅速に進めながら、実行力のある組織体制をつくります。

また、年齢、性別、障害の有無や、子育て・介護などの事情にかかわらず、職員が意欲を持って能力を発揮できる環境をつくとともに、市役所本庁舎の建て替えを契機とした、多様な働き方ができる職場環境の実現などにより、業務の質や効率性の向上を図ります。さらに、職員一人ひとりが、まちづくりの理念や行政に求められる役割への理解を深め、知識やスキルを高めていくための取り組みを進めます。

### (4) デジタル化により豊かな市民生活を実現させる

これからの都市経営においては、飛躍的に進化するデジタル技術を積極的に取り入れ、市民サービスの充実や地域経済の活性化につなげることが重要です。その実現に向け、専門性の高い人材の育成や情報リテラシーの向上を図ります。

行政手続きのオンライン化や簡素化、様々な情報にアクセスしやすい環境づくりを進めることで、市民サービスの利便性を向上させるとともに、子育てや教育、福祉など暮らしに関わる様々な分野において、デジタル技術を課題の解決や双方向性のコミュニケーションの促進に活かすなど、多様な選択肢があり、豊かで安心して生活を送ることができる環境をつくります。

また、デジタル技術を地域経済の活性化や持続可能な都市の運営につなげるため、産学官金の連携等により、様々なデータの収集及び活用をはじめ、先進的な実証実験やスマートシティ<sup>※2</sup>型のまちづくりを推進するなど、新たな価値の創造に向けた取り組みを進めます。

※2：スマートシティ  
ICT等の技術を活用しつつ、マネジメント（計画、整備、管理・運営等）が行われ、全体として最適化が図られた都市または地区。

## (5) 大都市としての責任を果たす

仙台は東北各地から人口が集まる大都市であり、経済、交流、文化の面で高度な都市機能を有しています。こうした資源を活かして東北に貢献することは大きな役割の一つです。東北の発展なくして仙台の発展はなしとの認識のもと、東北全体の活力を生み出していきます。その実現に向け、国や県との適切な役割分担により、地方分権の推進や広域連携を進めることで、大都市にふさわしい権限と税財源の確保を図り、スケールメリット<sup>※1</sup>を発揮しながら市民サービスを提供できる環境を構築します。

※1：スケールメリット  
規模の大きさによって得られる  
様々な利点。企業経営面の利点  
としては、生産性や知名度、販  
売力の向上などがある。

# 2

## 都市構造形成の方針

### (1) 基本的考え方

市民とともに守り育んできた「杜の都」の都市基盤は、仙台のシンボル、市民の誇りとして、その個性を活かし、さらに伸ばしながら次世代に引き継いでいく必要があります。また、人口減少や少子高齢化、グローバル化などの社会情勢が変化し、地域課題が多様化する中であっても、市民の快適な暮らしを保持しながら、活力を生み出すまちづくりを進めていくためには、都市活動を支える基盤を着実に形成していくことが求められます。

そのため、機能集約型の都市づくりと公共交通を中心とした交通体系の構築を一体的に進めると同時に、みどりのネットワークや健全な水循環の形成を図り、自然と調和した持続可能な都市づくりを進めます。

### (2) 自然と調和した都市づくり

自然と調和した持続可能な都市づくりに向け、仙台の地勢や地域の特色を踏まえた土地利用を図りながら、鉄道沿線などの交通利便性の高い地域への都市機能の集約を進めます。

#### ① 市街地ゾーン

##### ■ 都心

賑わいと交流、継続的な経済活力を生み出す躍動する都心を目指し、高度な都市機能の集積をはじめとした国際競争力のあるビジネス環境を整えるとともに、それらを支える商業・交流・宿泊機能の強化や歩きたくなる都市空間の形成を図るなど、都心の再構築を進めます。

##### ■ 広域拠点

泉中央地区及び長町地区に「広域拠点」を配置し、都市圏の活動を支え、生活拠点にふさわしい魅力的で個性ある都市機能の集積を図ります。

##### ■ 機能拠点

仙台塩釜港周辺地区に「国際経済流通拠点」、青葉山周辺地区に「国際学術文化交流拠点」を配置し、都市としての持続的な発展を支える魅力的で個性のある都市機能の集積を図ります。

※1：高度利用  
都市計画による制度などを活用し、中高層建築物または容積率（建築敷地面積に対する延べ床面積の割合）の高い建築物を建築することにより、土地をより高度に利用すること。

### ■ 都市軸

東西と南北の地下鉄駅を結ぶ地下鉄沿線を、十文字型の「都市軸」と位置づけ、駅を中心とした土地の高度利用※<sup>1</sup>や都市機能の更新・集積を図ります。

#### ア 南北都市軸

都心と広域拠点などを結ぶ地下鉄南北線沿線の「南北都市軸」においては、都心や広域拠点との連携を強化し、地域特性を活かした都市機能の更新・集積を図ります。

#### イ 東西都市軸

地下鉄東西線沿線の「東西都市軸」においては、西部の学術研究機能や国際文化交流機能と、中心部の商業・業務機能、東部の産業機能など、多様な都市機能と連携しながら、土地の高度利用や都市機能の集積を図ります。

### ■ 鉄道沿線

JR沿線の交通利便性が高く、地域におけるまちづくりの核となり得る鉄道駅を中心に、居住機能や暮らしに必要な都市機能を誘導します。

### ■ 郊外居住区域

様々な世代やライフスタイル、地域の実情などに応じて、生活の質を維持するために必要な都市機能の確保を図ります。

### ■ 工業・流通・研究区域

将来的な動向や産業構造の変化に対応した、それぞれの機能のさらなる集積と国際的・広域的な産業機能や研究開発機能の一層の集積を図ります。また、地域経済を支える活力ある産業機能の基盤整備を計画的に進めます。

## ② 集落・里山・田園ゾーン

自然環境保全の視点からの農地や農業の持つ多面的な価値を十分に認識しながら、農林業振興や多様な主体によるまちづくり活動への支援により、集落の生活環境を維持します。また、周辺環境と調和しない土地利用の転換は抑制し、森林や里山、田園が持つ機能の保全を図ります。

### ③ 自然環境保全ゾーン

奥羽山脈や海岸部など、豊かな生態系を支え自然環境を守る区域であり、仙台の自然特性が将来にわたって保持されるよう自然環境を保全します。

#### <図-1 杜の都のグリーンインフラ>

「杜の都」の骨格を成すみどりの持つ多様な機能を示すものです。

#### <図-2 土地利用方針図>

仙台の地勢や地域の特徴を踏まえた土地利用の方針を示すものです。

#### <図-3 都心まちづくりの方向性>

魅力的な都心に向けたまちづくりの方向性を示すものです。

## (3) 公共交通を中心とした交通体系の構築

経済や観光、福祉など多様な都市活動を支え、環境や人に優しい持続可能なまちづくりを推進するため、公共交通の利便性を高めていくとともに、広域的な交流・連携の促進や、通勤・通学・通院など日常生活に必要な移動手段の確保に向けた交通政策を推進します。

- ① 鉄道にバスが結節する交通体系の構築を進めるとともに、都心直行型バスを主な移動手段とする地域における利便性の向上や、鉄道及び路線バスを補完する市民協働による地域交通の確保など、過度に自家用車に依存しない、利便性の高い公共交通を中心とした都市交通の充実に取り組みます。
- ② 交流や経済活動の中心的な舞台となる都心においては、「杜の都」の賑わいと交流の中心であり続けることができるように、居心地が良く歩きたくなる歩行者空間の創出や、公共交通・自転車などを利用した快適な移動環境の整備を進めるなど、交通環境の再構築に取り組みます。
- ③ 新技術の活用、経済活動や広域的な交流を促進する主要な幹線道路の整備、日常生活における安全・安心な交通環境の形成を進めるなど、多様な都市活動を支える交通政策を推進します。

#### <図-4 目指す将来の交通体系のイメージ>

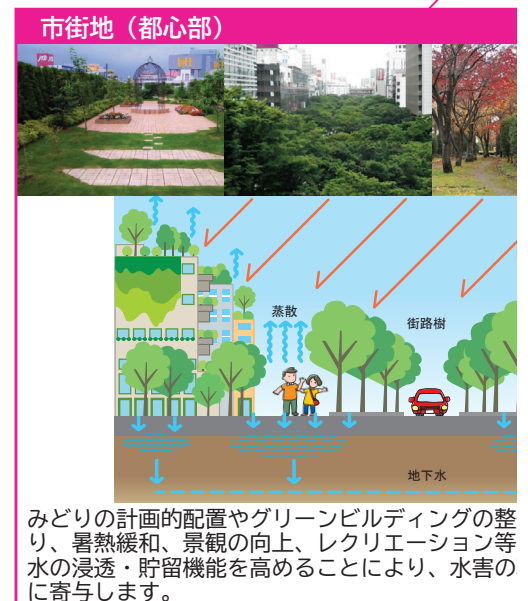
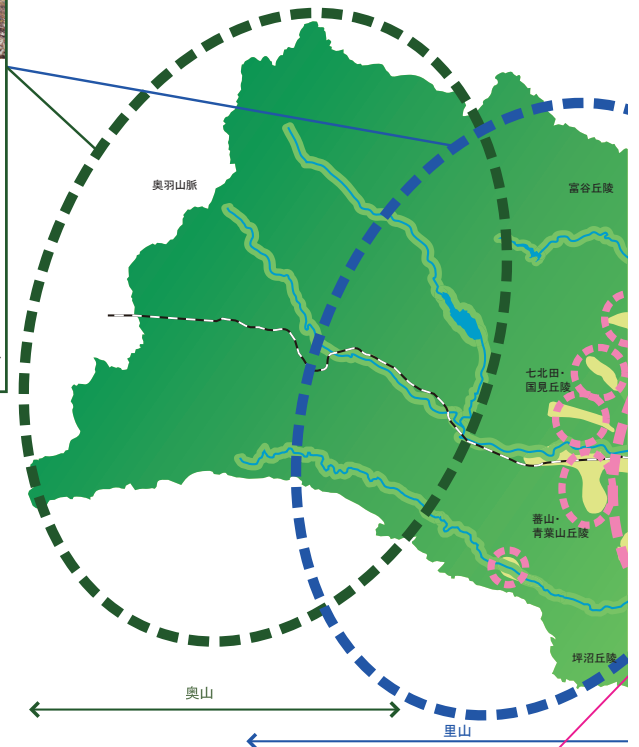
本市が目指す公共交通を中心とした交通体系イメージを示すものです。

図-1 杜の都のグリーンインフラ



凡 例

	山地・丘陵地のみどり
	田園のみどり
	水が育むみどり軸
	みどりの市街地
	海岸のみどり
	みどりの拠点

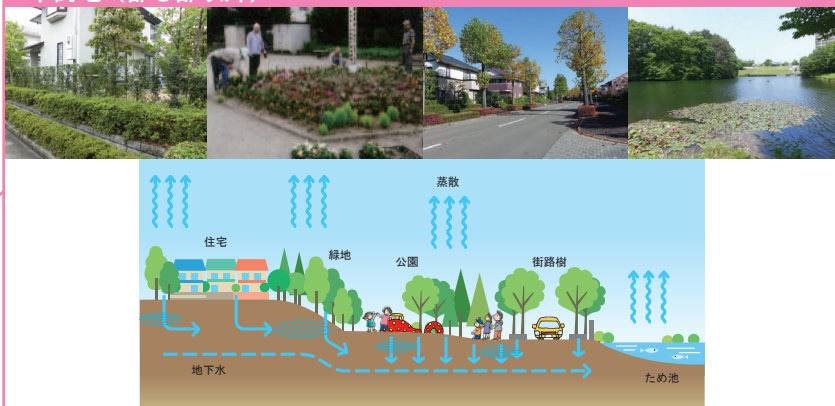





仙台は、森林や里地里山、市街地のみどり、東部の農地、源流から河口に至る河川など、市域に多様な自然がつながりを持って分布している稀有な都市です。

これらの骨格となる多様なみどりは、水害の軽減、水源・地下水涵養、水質浄化、利水、微気象の緩和などの様々な役割を果たしています。

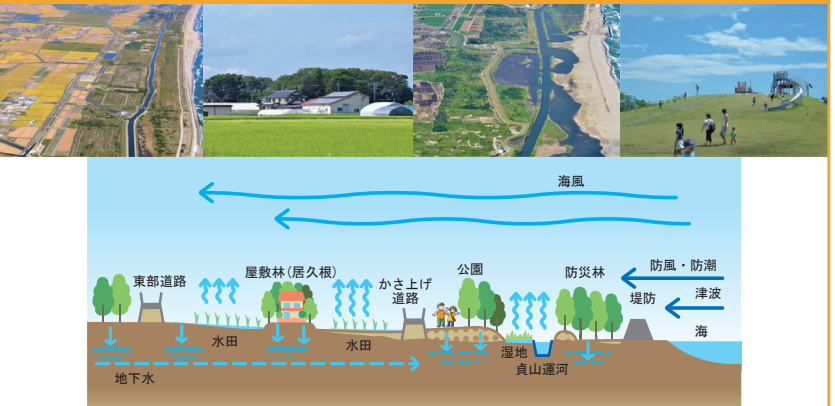
### 市街地（都心部以外）



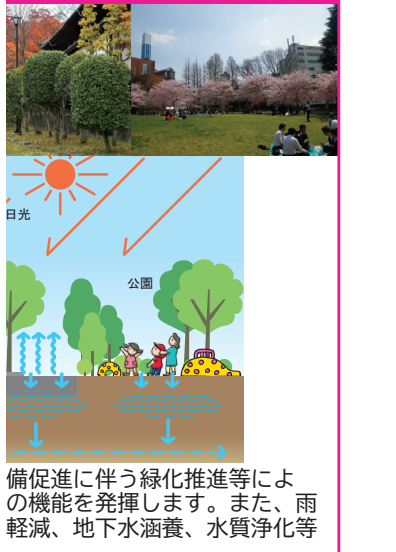
市街地のみどりは景観の向上、レクリエーション、コミュニティ形成等の機能を発揮します。また、雨水の浸透・貯留機能を高めることにより、水害の軽減、地下水涵養、水質浄化等に寄与します。



### 田園・海岸



夏季の冷たい海風は東部の平坦な地形を通して内陸まで届き、市街地の温度の上昇を緩和しています。沿岸部の防災林は防潮・防風機能を確保し、防潮堤やかさ上げ道路等による津波被害を軽減する多重防御の機能を高めます。農地、湿地、屋敷林や樹林地の保全により生物多様性確保、地域固有の景観保全に寄与します。



備促進に伴う緑化推進等による機能を発揮します。また、雨軽減、地下水涵養、水質浄化等

図-2 土地利用方針図

